

くじら打ち上がった（その1）

- 明治45年（1912年）3月10日の朝、となりの街の九戸浜（くどはま）に巨大なくじらが打ち上げられた。その時はまだ生きていた。
- くじらは、全長30m、骨の大きさから推定すると100tから120tはあったと考えられる。
- 12日には、となりの雁子浜（がんごはま）まで流され、沖に流されてしまった。
- 13日の早朝（午前2時から3時ごろ）そのくじらは三ツ屋浜の浅瀬に打ち上げられた。

はじめに打ち上がったから3日、ついにチャンスが！

くじらが打ち上がった（その2）

- なんとかしても、クジラの肉を売って、借金を返したいと必死の思いだった。
- くじらが打ち上げられて流されないように、5人1組で見はり番を付けて守った。
- 夜、村人全員によって、「くじら会議」が行われた。

【くじら会議について】

- 会議で、肉を売りそのお金で学校を建てた借金を返すこと。
- 売った金額は、8割が村へ、2割は売った人のものとした。ただし、村の役員たちは報酬なしとする。
- 赤肉と白肉の売り値を決めた。
- 村人みんなが協力すること！



クジラが打ち上がった時の様子
「上下浜小学校資料室」より

地域に残る言い伝え

- 日本海側の村や町には昔からあるくじらの言い伝えがあった。北の海にいたくじらが、赤ちゃんを産むころに、日本海を通過して、南太平洋にうつる。そして、子どもと一緒に、また北の海にもどる習性をもっている。そして、魚の群れを追ううちに、強い風にあおられ、浜に打ち上げられてしまいうじらがいた。

・三ツ屋浜に来たくじらも、南に行つて子どもを産むためになんかしている途中だったのだと、後で気付かされた。

1980～1997年間の上越地方における海生哺乳類の漂着・迷込・目撃・混獲記録

No.	年月日	種名	場所	状況	生・死	体長(cm)	体重(kg)	性	
1	1982. 6. 2.	マイルカ	青海町須沢	漂着	死	168	—	—	※-1
2	1983. 2. 11.	イシイルカ	上越市五智	漂着	死	218	150.0	雄	
3	1985. 2. 27.	ハンドウイルカ	上越市虫生岩戸	漂着	死	285	—	雌	
4	1986. 2. 1.	イシイルカ	上越市五智	漂着	死	219	120.0	雌	
5	1987. 3. 8.	イシイルカ	柿崎町直海浜	漂着	死	220	—	—	※-2
6	4. 5.	イシイルカ	上越市長浜	漂着	生	201	113.0	雄	
7	1988. 3. 4.	カマイルカ	上越市居多ヶ浜	漂着	死	175	51.0	雌	
8	4. 26.	オウギハクジラ	上越市丹原	漂着	生	213	86.0	雌	
9	1989. 1. 26.	カマイルカ	柿崎町柿崎	漂着	死	160	47.5	雌	
10	3. 11.	ゴマフアザラシ	上越市虫生岩戸	目撃	生	—	—	—	
11	7. 15.	マイルカ	糸魚川市姫川港内	迷込	生	—	—	—	
12	1991. 4. 15.	オウギハクジラ	能生町小泊	漂着	死	521	1400.0	雌	
13	6. 24.	マイルカ	上越市長浜	混獲	死	194.0	62.0	雄	
14	1993. 1. 22.	カマイルカ	上越市西本町4	漂着	死	197.5	131.0	雄	
15	1. 22.	カマイルカ	能生町筒石	漂着	死	200	70.0	—	
16	2. 10.	イシイルカ	柿崎町直海浜	漂着	死	200	—	雄	
17	2. 11.	カマイルカ	柿崎町新町	漂着	死	170	—	—	※-3
18	2. 18.	マイルカ	能生町藤崎	漂着	死	213.0	99.3	雌	※-4
19	3. 2.	オウギハクジラ	能生町徳合	漂着	死	467.0	—	雌	
20	3. 19.	カマイルカ	青海町須沢	漂着	死	200	—	—	※-5
21	3. 29.	カマイルカ	能生町小泊	漂着	死	170	—	雌	※-5
22	4. 4.	ネズミイルカ	能生町藤崎	漂着	死	166	—	雌	※-5
23	4. 30.	カマイルカ	能生町鬼伏	漂着	死	190	—	—	※-6
24	5. 1.	カマイルカ	上越市中央4	漂着	死	162.0	53.0	雌	
25	8. 12.	種不明クジラ	青海町市振	目撃	死	(漂流中)	12~15m	—	※-7
26	8. 15.	種不明クジラ	大潟町	漂着	死	(570)	—	—	
27	1994. 1. 16.	カマイルカ	能生町藤崎	漂着	死	148.0	40.0	雌	
28	5. 5.	オウギハクジラ	上越市西本町4	漂着	死	463.0	—	雌	
29	5. 31.	ツチクジラ	上越市長浜	漂着	死	(測定不能)	—	—	
30	1996. 2. 19.	イシイルカ	名立町鳥ヶ首	漂着	死	214	—	—	※-8
31	2. 25.	イシイルカ	上越市茶屋ヶ原	漂着	死	210.0	189.0	雄	
32	4. 5.	カマイルカ	能生町筒石	漂着	死	(215)	—	—	
33	4. 6.	オウギハクジラ	能生町筒石	漂着	死	519.0	1300	雄	
34	4. 12.	オウギハクジラ	柿崎町直海浜	漂着	死	466.0	(800)	雄	
35	4. 25.	オウギハクジラ	大潟町潟町	漂着	死	530.0	(1300)	雌	
36	1997. 2. 4.	カマイルカ	上越市中央4	漂着	死	172.4	52.0	雌	
37	4. 18.	カマイルカ	糸魚川市大和川	目撃	生	(群:約50頭)	—	—	
38	4. 22.	カマイルカ	柿崎町直海浜	目撃	生	(群:約500頭以上)	—	—	
39	4. 24.	カマイルカ	上越市直江津港内	迷込	生	(群:約100頭)	—	—	
40	4. 25.	カマイルカ	柿崎町直海浜	漂着	死	180.0	74.5	雌	
41	4. 25.	カマイルカ	大潟町九戸浜	漂着	死	194.0	88.0	雌	
42	5. 16.	オウギハクジラ	上越市長浜	漂着	死	(測定不能)	—	—	
43	10. 2.	ハンドウイルカ	上越市西本町4	漂着	死	(測定不能)	—	—	

くじら打ち上げの記録 「くじら学校資料集」より

くじらの解体

- くじらを解体する専用の道具はなく、くじらのことをよく知っている人もいなかった。
- 刀やナタ、斧、のこぎりなどを使った。
- はしごを使ってくじらに登った。
- くじらはうるこがなく、油でぬるぬるしていたため、すべりやすく、命がけで解体作業をしていた。
- 雪の降る寒い海での作業は、とてもつらかったが必死で解体が行われた。
- 後で、おなかに赤ちゃんがいたことが分かった。

大変だったくじら売り（その1）

- 集落のお母さんたちが、一人30kgほどの肉をてんびんで担いで売りに出た
- 3、4人でグループを作り、出かけた。
- 雪の中、重さと寒さに耐えて売り歩いた。
- 遠く、十日町や長野まで売りに行った。
- 解体を見にきた人にも売った。

大変だったたくじら売り（その2）

- たくさんの雪を使っても、皮下脂肪が厚く、体温が下がらなかつたため、内臓からどんどん腐っていき、赤肉は痛みが早かった。
- 白肉（皮下脂肪）は、まだ大丈夫だと分かったので、たくさん売った。
- 売り上げははっきりしないが、当時のお金で500円ほどたったと言われている。

5日かかって、ちょうど、学校の借金が返せる分のお金を作ったのだった。

くじら売り（その3）

- もっと売ることはできたが、借金を返せる金額が集まると、売るのをやめた。
- 「**浮利（ふり）を追わず**」という考えで、赤ちゃんがおなかにいた事もあって、必要な分だけにした。